

令和5年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和5年3月20日（月曜日）

○日時 令和5年3月20日 午後1時15分開会

○場所 議場

○議件

1. 地域再生可能エネルギー導入戦略の策定について

○出席委員（6名）

委員長	松浦敏司
委員	石垣直樹
	井戸達也
	金兵智則
	工藤英治
	澤谷淳子

○欠席委員（1名）

副委員長	近藤憲治
------	------

○委員外議員（0名）

○傍聴議員（7名）

小田部	照
栗田	政男
立崎	聡一
永本	浩子
平賀	貴幸
古田	純也
村椿	敏章

○説明者

副市長	後藤利博
市民環境部長	武田浩一
市民環境部次長	田邊雄三
生活環境課長	近藤賢

○事務局職員

事務局長	林幸一
総務議事係長	法師人絵理
総務議事係	早渕由樹

午後1時15分開会

○松浦敏司委員長 ただいまから、文教民生委員会

を開会いたします。

初めに、近藤委員より欠席の届出がありますので、御報告いたします。

本日の委員会ですが、所管事務調査であります。

それでは、まず最初に、パッカー車の火災について説明を求めます。

○近藤賢生活環境課長 パッカー車の火災事案について報告させていただきます。

本日、令和5年3月20日午前9時頃に発生しました。パッカー車の火災事案について報告いたします。

発生場所ですが、潮見6丁目105-37付近。消防の覚知時刻は午前8時59分です。火災が発生した車両ですが、網走市の委託車両である網走市廃棄物処理協同組合の埋立ごみのパッカー車です。

消防の情報では9時12分に鎮火。その後、11時40分頃まで現場検証をしていたところです。

現場に入っていた委託業者からの報告では、ごみを広げて検証したところですが、恐らくライターもしくはガス管、ガスボンベですね、ポータブルのガスボンベから出火したと考えられるという内容です。

その後、収集車両は、その日のごみ収集に復活しておりまして、本日につきましては、約2時間半ぐらい遅れて収集をしている状況となっております。

以上を報告させていただきます。

○松浦敏司委員長 ただいまの報告に何か質疑ありませんか。

○金兵智則委員 なんか今お話を聞く限り、そんなに大きな被害ではなかったという感じなんですけれども、作業員の方とか人的に何かがあったとかということもなかったということでもいいんですね。

○近藤賢生活環境課長 はい。車両、そして作業員については、特に被害はなかったという情報でございます。

○松浦敏司委員長 よろしいですか。

○金兵智則委員 はい。

○松浦敏司委員長 それでは、議件1、地域再生可能エネルギー導入戦略の策定について説明を求めます。

○近藤賢生活環境課長 令和4年度に策定します、

地域再生可能エネルギー導入戦略について説明させていただきます。

資料1号、網走市地域再生可能エネルギー導入戦略の概要を御覧願います。

1ページ目、第1章、基本的事項・背景・意義の整理でございますが、網走市が今回、この戦略を策定した背景には、国が目指すカーボンニュートラルそして、北海道におきましても「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」を改定し、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を行うとされていることにあります。

計画の目的ですが、網走市としても、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、地域における再生可能エネルギー導入ポテンシャル、将来のエネルギー消費量などを踏まえた導入目標や目標の実現に向けての具体的な取組を示すこととします。

計画の期間と目標年度ですが、国及び道の計画と整合を図るため、2050年までとし、目標年度は2030年度、2050年度と分けた形とし、基準年度は、国、道と整合を取り2013年度とします。

従いまして、毎年進捗管理をしながら、2030年度には戦略の見直しをする必要が出てきます。

対象とする温室効果ガスは、全国で全体の91%、北海道で約87%を占めるとされている二酸化炭素を対象としております。

3ページ目を御覧願います。

第2章、温室効果ガスの排出量の推計と要因分析ですが、北海道の削減目標を参考に2030年度に基準年度の2013年度と比べて48%削減、2050年度に排出量実質ゼロを目指す形としております。

現時点での推計可能な二酸化炭素排出量の削減量ですが、2030年度は34.9%、2050年度は43.5%の削減効果が期待されている状況です。

4ページ目を御覧願います。市民の皆様の地球温暖化問題やエネルギー資源問題、再生エネルギーに関する理解度や取組状況を整理するためアンケート調査を実施しております。

配付数ですが、家庭向けが1,800、事業所向けが200で、回収数は家庭が537通で29.8%、事業所が53通で26%の回収状況となっております。

結果の概要ですが、市民向けでは76%の方が地球温暖化に関心を持ち、さらに、温暖化が進んでいると考えている方は8割となっております。

また、地球温暖化対策としまして、市や事業者に取り組んでほしいことは、ごみの減量化とリサイクル

ルの推進が最も多い回答となっております、市民によるごみ減量の取組を重視すべきとの回答が多くありました。

事業所向けでは、事業活動として、環境への取り組みや社会貢献として取り組むことが必要、とする回答が53%となっております。

また、取組を進めることに当たっては、国や自治体の助成や支援が重要だとする回答が49%と、約半数を占めております。

5ページ目、再生可能エネルギーの導入と目標の設定を御覧願います。再生可能エネルギー情報提供システムでは、網走市における導入ポテンシャルは表に示すとおり、太陽光発電の土地系のポテンシャル、潜在可能性が突出しております。

2030年度に48%削減を達成するためには、現状の推計では34.9%減となることから、さらに13.1%の削減が必要となってきます。この潜在可能性を生かすことで、2030年度までの削減目標達成できると考えられます。

ただし、太陽光発電の土地系の潜在可能性が高いといいますが、むやみに土地を開発して設置していくことは、環境破壊につながることから、このことにも注視していく必要があります。

6ページ目、温室効果ガス排出削減等に関する対策施策を御覧願います。網走市の温室効果ガス二酸化炭素の排出は、産業部門の割合が4割ですが、それ以外の業務部門、家庭部門、運輸部門からも排出されており、各部門において対策を進める必要があります。

削減目標を達成するためには、再生可能エネルギーの利用促進、区域の事業者の協力、住民の活動促進、循環型社会の形成を踏まえた対策と施策を立案する必要があります。

表では、施策ごとの基本方針を示し7ページと8ページにおいて、基本方針ごとの取り組みを記載しております。

9ページ目、再生可能エネルギー導入戦略シナリオを御覧願います。

基本方針を踏まえました、脱炭素シナリオのロードマップを図の通り整理しました。再生可能エネルギーの利用促進、区域の事業者・住民の活動促進、地域環境の整備及び改善、循環型社会の形成という項目で整理しております。

10ページで2030年までの目標、2050年までの目標として整理し、2030年度までに基準年度比48%削

減、2050年までにはカーボンニュートラルとするため、様々な施策を進めていくことを記載しております。

11ページ目は、計画の推進体制と進行管理を記載しています。

推進体制では、現在の地球温暖化実行計画（事務事業編）と同様に、独自の環境マネジメントシステムを活用し計画を推進してまいります。

進行管理ですが、取組状況を公表し、環境保全審議会からは、取組に対する提言をいただくこととします。

本計画の目標及び進捗指標については、毎年度、情報収集し、その達成状況を把握・評価し、必要に応じて見直しを行い、PDCAサイクルに基づくフォローアップを行ってまいります。

なお、この戦略については、令和5年度に改定を予定する網走市環境基本計画とも整合性を取ることとなります。

また令和5年度は、この戦略を基に、網走市地球温暖化対策実行計画の区域施策編を策定しますので、実行計画を策定する際は、環境保全審議会にも図り、広く市民の意見をいただくため、パブリックコメントを実施した上で策定する予定でございます。

以上で説明を終わります。

○松浦敏司委員長 ただいまの説明で質疑などございますか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これもちまして、文教民生委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午後1時26分閉会
